

東京バッハ合唱団 月報

[第 680 号] 2019 年 2 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.680

February 2019

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

第 117 回定期演奏会「天使と羊飼いのクリスマス」 初めての 2 部公演、大盛況でした

昨年 12 月 22 日、「天使と羊飼いのクリスマス」と銘打って、第 117 回定期演奏会を開催しました。すでにご案内のとおり、この「第 117 回」定期は、当初予定のホールが狭すぎるなど分かって急遽キャンセルし、関連のある 2 つの教会を会場とする入場無料のコンサートに内容を変更した経緯があったものです。

トランペット 3 本とティンパニで華々しく開幕する《クリスマス・オラトリオ》(全 6 部) は、当合唱団創設の初期より前半・後半の 3 部ずつに分けて、ほぼ毎年、上演をくり返してきた人気の出し物です。近年でこそ、ふだんの教会カンタータ中心のプログラムにも固定数のご来場が見込まれるようになりましたが、久しぶりのオラトリオ上演ということで、ご常連、後援会員・支援会員の多くのみなさまからも、大きな期待

の声寄せられていましたが、400 前後の席数では前もって定員オーバーが明らかであり、ご予約いただいたソリスト・器楽奏者の方々には、まことに申し訳ない結果となってしまいました。

日ごろ練習場として使わせていただいている荻窪教会は、もともと当初の定演の翌週に、共催の教会コンサートとして、縮約編成の開催を予定してくださっていましたので、「第 117 回定演」と看板をつけ替えさせていただきました。また、ご予約くださった奏者のなかからも有志の方が協演を申し出てくださって、こんどはこちらでも人気が高まり、座席数が不安になるという「ありがたい誤算」。ふたたび急遽、団員の方の所属教会のご配慮で、第 2 会場の三崎町教会公演が実現したのです。多くの方のご好意に支えられ、初めての 2 部公演開催となりました。

ご尽力くださった多くのみなさまに、あつく御礼申し上げます。なお、同《クリスマス・オラトリオ》のフルオーケストラ版は、数年以内にあらためて必ずお届けしますので、しばしお待ちください。

< 終了報告 >

第 117 回定期演奏会

“天使と羊飼いのクリスマス”

— 《クリスマス・オラトリオ》第 II 部を中心に—

- ◆日時と会場：2018 年 12 月 22 日 (土) 【二部公演】
[A] 午後 2 時開演、日本キリスト教団・荻窪教会
[B] 午後 6 時 30 分開演、同・三崎町教会 (水道橋)
- ◆曲目：J. S. バッハ (日本語上演・大村恵美子訳詞)
・カンタータ第 28 番《頌むべきかな 年終り》
Gottlob! nun geht das Jahr Ende BWV 28
・《クリスマス・オラトリオ》より
Weihnachts-Oratorium BWV 248/II +
第 II 部「この地に野宿して 夜」(全曲 No. 10-23)
第 III 部「天つ君よ 聞きたまえ」(抜粋 No. 34, 35, 24)
- ◆演奏：Fl 山田恵美子、Ob 土屋愛菜、Vn 中川典子
KB 菅原 光、Org 田尻明葉
合唱/斉唱 東京バッハ合唱団、指揮 大村恵美子

両会場とも入場無料 (自由募金あり)

入場者：A 会場 72 名、B 会場 74 名

会場アンケート回答

今回もご来場者から多くのアンケートご回答をいただきました。以下にご紹介させて頂き、今後の活動の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

A 会場：荻窪教会

◆演奏全般について

- ・クリスマス前に聴くことができ、感動いたしました。演奏が素晴らしかったです。
- ・貴合唱団を初めて聴かせていただき、有難うございました。コーラスも立派ですが、伴奏者もきれいですね。
- ・伴奏のふくらみが素晴らしく、心地良かったです。
- ・とても良かったです。「羊飼いと天使に焦点」が初めてとはびっくりしました。とても分かりやすかったです。

月報 2 月号 CONTENTS

- ・第 117 回定期、会場アンケート回答…… p 1-p 4
- ・おたより：花井鉄弥様…… p 4
- ・生・死・復活を思う年末年始 (大村恵美子) …… p 4



■荻窪教会、満堂のお客様と共に（2018/12/22、午後2時より）
写真提供：パラビジョン（竹内 恵様）

- ・ほんとうに良い会でした。特にテナーは人数が少ないし、高音をがんばっていらしたと、ごくろうさまです。
- ・楽器も入り、とても楽しい演奏会でした。良いクリスマスプレゼントになりました。コーラスがきれいでした。
- ・まとまってとてもきれいな歌声でした。ソプラノがとてもよかったです。
- ・Kb が絶え間なく活躍しているのに驚いた。このパートがしっかりしているとらくだ。合唱隊がやや苦しそうだ。本国でも一般信徒にくらべ、合唱部のようなあたりの音楽の力を持った人が分担してようやくなのだろう。
- ・落ち着いている。
- ・良かったです。
- ・来てよかったです。身近に素晴らしい演奏を聴くことができ、楽しいひと時でした。ありがとうございました。
- ・はじめ、レチタティーヴォやアリアも合唱で、というのはムリがあるのではないかと思いましたが、楽器がみな上手で、安心してきけました。特にコントラバスの方は素晴らしい！ オラトリオの 21) 合唱はとても気合が入っていて、音もそろっていました！ すごく練習しているのがわかりました。厳粛な気持ちになりました。
- ・5 人の演奏者は、すごい働きをされた。レベルが私には高すぎると思った。
- ・素晴らしい演奏を無料で聞かせていただき、感謝です。
- ・Sehr gut! [大変良い]
- ・演奏家の皆様ありがとうございました。しみじみと感動しました。フルート、オーボエ、弦楽器、オルガン、一人ひとりに拍手したいです。勿論コーラスの皆様も。
- ・よく勉強されておりますが、伝道の為には言葉（日本語）がもっと（単語）はっきりするとさらに良い。
- ・とても心がなごみました。
- ・きれいな声でよかったです。会場の大きさで、かなり近かったと……。

- ・会場が狭く、演者との距離が近すぎたように思います。
- ・いつも讃美の歌声を聞いて恵みを感謝です。
- ・日本語による演奏はうれしく思います。
- ・すばらしかったです。
- ・とても感動しました。
- ・ありがとうございました。すばらしかったです。
- ・美しくやわらかい歌声とメロディーがすばらしかったです。
- ・[後日、ハガキにて①]

先日は荻窪教会でのクリスマスコンサートに参加させていただきまして本当に有難うございました。少し遅れてしまい、2 階で拝見しましたが、美しい旋律に日本語の歌詞がとてもわかり易かったです。

私にとって初めてのバッハコンサートでしたが、イエスの誕生という大きな喜びを天使が羊飼いに伝えるという素晴らしい内容で、クリスチャンとしても大変感動しました。

また機会がありましたら是非コンサートに伺いたいと思います。

- ・[後日、ハガキにて②]

ドイツのバッハの曲を日本にいて聴ける・唱える、でも、詞は？ 分かりたい！ 讃美歌は日曜学校の時分から日本語で歌ってきて、祈りも詞も聖書も、意味が分かる。大村先生の訳詞は、聴衆に向けてもやさしい、素晴らしいです。チラシも思いが込められています。

◆とくに、日本語演奏について

- ・内容、意味が分かりよいのですが、難しい点もあると思います。
- ・歌の内容をプログラムに書かれた文字を追って理解できるのは良かった。ただ、音楽としては堅い感じがした。
- ・場景を思い浮かべながら聴けました。特にバスの響きが、日本語演奏にぴったり合っていたように思います。
- ・日本語ですので、意味がとてもよく分かりました。
- ・言葉がよくわかってとてもよい。大村先生のご苦労がしのばれ、本当によいものを残して頂いたことを感謝しています。
- ・歌詞もついていて意味が良く分かってよかった。
- ・言葉をはっきり発音しようとする為、一つの単語が一語一語切れ切れになってしまうのが残念でもあり、難しいところかもしれません(特にレチタティーヴォ)。
- ・場景が目には浮かんできました。
- ・文語なので格調は備わっている。メロディー、リズムに乗りにくいところはみなで工夫すればよい。バッハの音楽は普遍性を特色とするから、日本語、母語で歌うことに支障はない。
- ・歌詞 [掲載] があり、わかりやすいが、原語でも聴いてみたい。

- ・歌の心が良く伝わりました。
- ・クリスマスの礼拝でBachの曲をきけた。しかも日本語なのでよく内容がわかった、とうれしい気持ちです。中に出てきた曲「17」「23」をいっしょに歌えたのは大きな喜びです。
- ・共感をもって聴ける。
- ・分かることは、大変すばらしい。
- ・意味がわからずにメロディだけを味わうのではなく、より深くバッハ音楽の精神を理解することができるので、日本語演奏の方が良い。
- ・Sehr klar verstehen! [はっきり聞こえる]
- ・原語も音に乗って美しいですが、やはり意味をかみしめて聴けるよろこびがあります。
- ・日本語ですから、言葉のひとつひとつが伝道になると思います。
- ・レチタティーヴォ、よく聞こえました。
- ・よかったです。
- ・とても解りやすい、歌詞付きなので。
- ・初めて聴きました。はじめのうちはよく聞き取れませんでしたでしたが、聞きなれると日本語でもっと心に届くでしょうね。
- ・じっくり 聖書の言葉できけました。

◆その他、運営/会場等について、何でも

- ・狭いのですが、よく響いて大変良かったです。
- ・喉が治り、声が戻れば、また参加させて頂きたいです。いつも愚息がお世話になっています。1週間熱がありました。本日、神様を祝福する歌を皆様と唄えて、また、人々に伝えることができましたことに感謝します。
- ・申し分ありません。
- ・アットホームでよかったです。
- ・椅子がせまい。——若い人は脚の長い人、すこし太った人などいるので。ただ狭い椅子で信者さんが身を寄せ合う演出なのだろう。収容人数も減るし。堂が広く、天井が高いと響きがたつぷりでありがたみが増すかも。
- ・椅子が固い。1時間余りの演奏でコンパクトで良かった。クリスマスの雰囲気が欲しかった。皆で歌えて良かった。
- ・機会があれば、また参加したいです。
- ・高井戸からバスで「荻窪4丁目」で降りたが、チラシの図が全く役に立たなかった。区民センターで聞きました。
- ・Gut! Gut! Und freundlich! [良い、好ましい]
- ・全体に十分行き届いたお心づかいに感謝します。ありがとうございました。
- ・全てよろしかったです。
- ・ゆったりとして心地よかったです。
- ・会場が狭く、少し音が大きすぎました。



■三崎町教会。開演前のリハーサル（2018/12/22、午後6時30分より）
写真提供：千葉 光雄（団員）

B会場：三崎町教会

◆演奏全般について

- ・みなさんの真摯な歌唱に心打たれた。特に4声部の響きは美しかったです。
- ・すばらしいです。楽器がいろいろ入るのも良い。
- ・テノール・レチタティーヴォは人数を絞って歌うほうが良いと思います。
- ・カンタータ28番を聞きながら、今年一年を振り返ることができました。
- ・きれいな教会で声もよくひびいていました。
- ・近くで聞けてとてもよかったです。感動しました。音色がとても美しい。軽やかで牧歌的。天使と羊飼い、そのシーンを心に描けました。のどかなシンフォニア、おだやかなすばらしい演奏でした。心満たされました。
- ・天から響く女声と地を鳴らす男声とともに素晴らしかったです。
- ・心が休まるすてきな演奏と合唱でした！！
- ・良かった。
- ・少々変わった演奏会（クリスマスオラトリオの）で、おもしろかったです。
- ・とても良かったです。オーボエ、特にすてきでした。
- ・すばらしい。十分に楽しめました。昨年聞いて楽しかったので今年も来ました。
- ・太字部分 [プログラム掲載歌詞のコラール部分か]の迫力がすごいですね。シンフォニアもすばらしい。
- ・レチタティーヴォのバスがいずれも素晴らしかった。テナーは全般に頑張っているのが伝わってくるのだがもう一つでしょうか。でもコラールなどは良かったです。
- ・久しぶりに先生とお目にかかれました。いつもながらすばらしい演奏会でした。

◆とくに、日本語演奏について

- ・あたたかさが伝わります。
- ・新鮮です。
- ・日本語だとよくわかります。
- ・言葉がよく聴こえてきて、やはり美しいが、日本語は硬いので、この硬さがやわらかい発声で大分カバー

されていると思った。

・日本語だと何となく意味がわかるので良かった。歌詞が配られていたので、目で追えてわかりやすかった。場所を探してしまったので、略図があってもよかった。歌詞をみて、初めてそうかと思いました。違和感が全くありませんね。

- ・よく判った。
- ・今回だけでなく、いつもですが、格別なものがあります。
- ・わかりやくて良い。
- ・ほどよく文語調で、何を言っているかわかって良かった。
- ・教会で聴くのが良い、と今回とくに思いました。
- ・外国語よりわかりやすいと思う！
- ・いつもCDなどで聴く原語演奏は慣れています、特に違和感なく聞けます。

◆その他、運営/会場

- ・美しい教会パイプオルガン、すばらしいです。
- ・会場がとてもすばらしい。
- ・美しい教会で感動致しました。
- ・会場はよかった。
- ・とても行き届いて、あたたかい雰囲気でした。受付からすべて。すばらしいクリスマスを与えてくださいました。感謝です。
- ・三崎町教会に初めて入らせて頂きましたが、とても素敵です
- ・よい響きでした。
- ・駅近で良い。
- ・2回公演お疲れさまでした。
- ・30年ほど前になりますが、西武スタジオ200で行った《マタイ受難曲》のイベント、懐かしく思います。

お・た・よ・り

「私の萬葉 188選」

花井 鉄弥（後援会員）

〔前略〕バッハ・カンタータを通して遠い遙かな輝ける星であられた先生が、身近な古典を通して、分かち合い、感じあえる萬葉集を共有出来ると云うこと、これに優る喜びはありません。

〔……〕私も家内を亡くした時、街の雑踏の中にヒョットと出て来るのではないかと、あてもなく立っていたことと全く重なるので、〔……〕千年の時を経て亡妻を偲ぶ思いは全く変わらないのです。それを表現し伝え得る和歌の力のすごさを思います。そういった意味でも、挽歌に心ひかれます。

萬葉集の中から——148、149、158、161、195、203、208、209、211、212、221、223、224、225、446、449、

450、451、452、453、477、486、797、798。好きなものを並べて見ました〔内、477、797の2首は大村選にもあり〕。正月早々哀歌ばかりで申し訳ございません。

バッハ・カンタータの演奏指揮、全曲の日本語訳と、厩大なお仕事を抱えて、そのあい間に、表面に出ることなく、お一人で読み感じておられたこと、本当に萬葉集がお好きだったのだと思います。カンタータ全曲の日本語訳が先生のライフワークとなられたのも、萬葉集の力添えがあったからとのお言葉に、胸を打たれました。先生にはとても及びませんが、少しずつ少しずつ繰返し読み進めて、一首ずつでも好きなものを増やしていけたらと願っております。

『私の萬葉 188選』、大変な慰めと励ましをいただきました。有難うございました。〔後略〕

* * *

返歌になぞらえて……

「生」「死」「復活」を思う、年末年始の時期

大村 恵美子（主宰者）

新年に入って、花井鉄弥様のおたよりが届きましたが、それに先立って数日前、盛岡の佐々木まり子様から、2018年12月15日に盛岡市民文化小ホールで行われた《盛岡市民クリスマスコンサート》のDVDその他が送られて来ました。そのコンサートの最後は、バッハのBWV106《神の時は いとも正し》Actus tragicus（追悼行事）で、私の訳した日本語歌詞で、というご依頼をいただいていた。雑多な感想を書いて佐々木様に送り出したところ、間をおかずに、花井様のおたよりがあり、私は、この時期について、強いインパクトをあらためて感じるようになりました。キリスト教では、神の子イエスの生誕が、真冬のただ中で、光に浴して歓喜に溢れる日々として、誰しもが楽しみ祝います。でも、春のイースター（復活祭）こそが、記念行事としては、最も意義深いもので、人々に殺された神の子のよみがえりを信ずる者たちが、心をただして神の愛を受け入れることになっています。

花井様のおたよりを拝読したとき、私は、このキリスト教のしきたりのあり方に、何か通じるものを感じたのです。「めでたし」と喜びをかわす正月に、故人の思い出に浸る花井様。挽歌が次々と浮かぶそのご心境。ここでは詳しい理屈には触れる余裕はありませんが、一言であらわすと、人生においては、生・死は必ずより合わせて現れ、感じられるもの、ということではないでしょうか〔Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit（神の時は いとも正し）BWV106にも通じる〕。

私にとって死は、生より悲しく苦しいものではなく、神のもとに再び戻って、神の前に生きかえる、安堵の状態と感じられるのです。そこでは、耐えられないほどの苦痛などはないはずで